



南丹市陸上競技協会

南丹市陸協通報



『若手の登用により陸協を作り直す』

南丹市陸上競技協会

会長 森 利 夫

第 37 回定時総会におきまして、役員改選に伴い会長に就任いたしました前副会長の森利夫でございます。歴代会長様を中心に育て上げられました南丹市陸協の歴史と伝統をしっかりと受け継ぎ、新しい発展に向けて邁進する所存でございます。今後とも皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

さて南丹市陸協は、昭和 57 年から協会設立の準備をはじめ、昭和 59 年 2 月に京都陸上競技協会から正式に「船井郡陸上競技協会」として認められ、第一歩を踏み出しました。当時、私が理事長に就任し、設立に奔走したメンバーとともに試行錯誤を繰り返して、その当時のメンバーがほとんど今まで理事として頑張っていただきましたが、固定化と高齢化により、継続するには大変厳しい状況にあると感じておりました。年によっては数名の若い人材の入会はありましたが、状況は変わりませんでした。

そこで、この機会に若手の人材を登用し、この南丹市陸協を作り直していこうと考え、今この時期に取り組まない状況は厳しくなるばかりだと思っています。

就任いただきました朝倉幸平理事長のもと一丸となって進めていけるよう、皆さんと共に頑張っていきたいと思っております。

今、南丹市陸協が抱えている課題としては、①若手陸協会員の募集（各校種の先生で陸上競技に関心のある先生や、各校の陸上部の卒業生に声をかけ入会活動を実施する）。②選手強化を図る（小学生の追跡調査を実施し、小・中・高等学校の連携を深め、よりよく選手を見ていく。また、強化練習会や研修会を実施し、指導者や選手の資質や競技力を高める）。③主催競技会の充実（主催競技会は 3 大会（選手権大会、記録会（春・秋））しかありませんが、地元の選手が出やすい充実した大会を目指していく）。④主管競技会への協力（多くの主管競技会を抱えている現状の中、主管としての人員の配備と内容を充実させる）。といった事柄であると考えています。当たり前のことばかりですが、少しずつ着実に実践していきたいと考えています。

TOKYO 2020 オリンピック・パラリンピックへの道 I

審判部長 大倉 直也

2020年東京オリンピック・パラリンピックまであと1年を切り、南丹市陸上競技協会より、第二号の東京オリンピック・パラリンピックの出場者が内定しました。

その方は、大倉直也審判部長です。

マラソン・競歩の審判員の追加募集に応募。厳しい選考過程を突破され、見事審判の内定を得られました。2020年東京オリンピック・パラリンピックが終了するまで、『大倉レポート』をこの通報でお伝えしていきます。

当陸協審判部長であった内藤さんがオリンピック・パラリンピックの審判に行かれる事が決定した。内藤さんは、私が所属している TEAM P-man の会長でもあり、非常に近い存在の方がオリンピックへ行かれる事が決まり、嬉しくもあり、羨ましく思っていました。

2月末に何気なく京都陸協のホームページを見ていると、TOKYO2020 競技役員研修会「マラソン・競歩 NTO 資格取得研修会（追加募集）」という案内が目飛び込んできました。各陸協男女各1名のみとの事で、これまた狭き門。しかし「これを逃すとチャンスはない！」と思い、思い切って京都陸協の長屋審判部長に申し込みをお願いしました。そして約半月後、研修会への参加通知があり大きなチャンスを頂きました。

ここで一つ問題が。「審判に参加するには、マラソン・競歩の全てに参加可能であることが必須。また道路競技の任務に当たらない日には、他の任務を行う事もある。」と記載があり、陸上競技の開催期間中は、仕事を休まなければいけない。40歳代、働き盛りの身としてはなかなか高いハードル。試験に合格すれば、オリンピック・パラリンピックに行けるかもしれない。一生に一度のお願いと職場に相談しました。返事はOK！快く承諾してもらって感謝。

そしてオリンピック・パラリンピックの審判に参加するためにはNTOの資格を取得しなければなりません。NTOとはナショナル・テクニカル・オフィシャル。IAAF（国際陸上競技連盟）が定める国内レベルの技術委員の略です。

研修2日目には試験があるとの事で、そこから2019年度版陸上競技ルールブック・審判ハンドブックを購入し、猛勉強をスタート。



オリンピックに向けて意気込む大倉審判部長

研修会は、平成最後の 2 日間 4 月 29 日・30 日。東京の味の素・ナショナルトレーニングセンターで行われ、研修 1 日目を迎えました。初日は夜 7 時までみっちり研修会。「マラソン・競歩 NTO 資格所得研修会」ではあるが、陸上競技全般、トラック競技、フィールド競技、ロード競技、多岐にわたる内容の講義が行われ、全ての事に精通してこそ NTO だという事を実感。夜 7 時までの研修ですが、好きな事をしている研修もあり、あっという間の研修でした。

翌日は朝 9 時から試験を行うとの事で、宿に戻り夕食を済ませた後は最後の勉強。これだけ集中して勉強したのは久しぶりでした。

そうして迎えた試験。試験は 2 時間。試験問題を開いてまず目に飛び込んできたのは、来ました！英語問題…試験にはルールブックを持ち込んでも可ではあったのですが、ここでかなりの時間を要してしまいました。問題は陸上競技全般に関するもの。トラック競技（長距離）をしてきた私にとっては、フィールド競技の問題はなかなか難しく、結局、問題の数が多く最後の 1 問手を付けられずに残して時間切れ…正直まずいと思いましたが仕方ない。

こうして、2 日間のオリンピック・パラリンピックに向けた東京での研修はあっという間に終わったのですが、「帰宅される頃にはメールで宿題が届いています。これも点数が付きます。1 週間以内に提出して下さい。」との事で、帰宅しても油断はできません。

帰宅後、届いたメールを確認すると、4 問の宿題が届いていました。これがまた難しい。普通ではなかなか起きないであろう選手の動きに対して、あなたならどうする？といった感じの問題。色々時間を掛けて調べて、宿題を提出しました。

そこからは、日本陸連からの返事待ち。しかしこの資格試験に合格したからといって、オリンピックの審判に内定したわけではないと言われます。

そうしていつか、いつかと首を長くして待ち、5 月 23 日ようやくメールが届きました。その結果、『総合判定「合格」NTO 認定』と、合格メールが届きました。

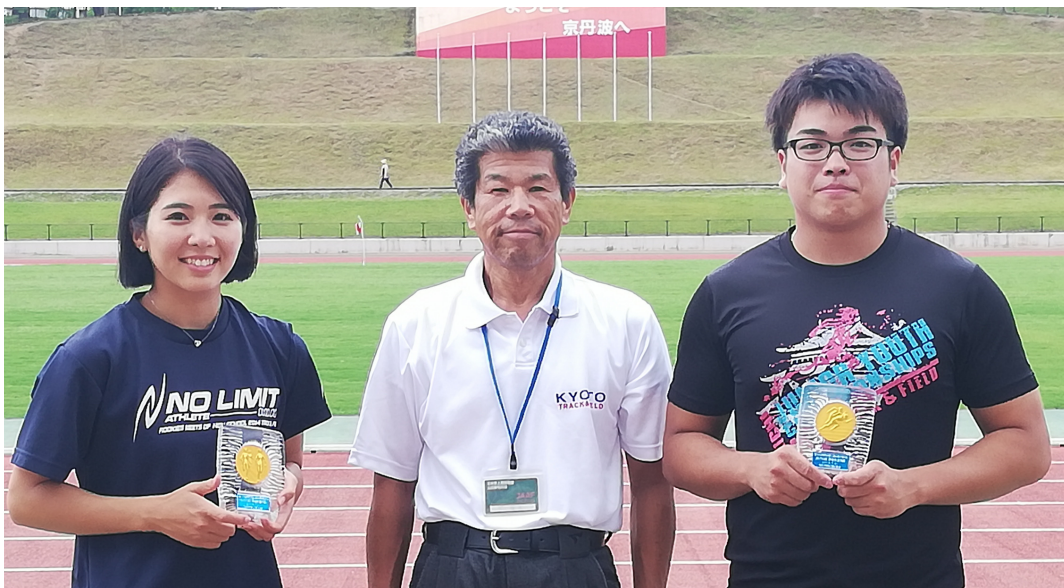
そしてまた一週間後には、『東京 2020 NTO 内定者各位』といった題名で案内メールが届き、ついにオリンピック・パラリンピックへの参加が、夢から現実のものとなってきました。

今後の予定として、まず行く実地研修は、9 月 15 日に行われる MGC（マラソングランドチャンピオンシップ）です。日本トップのマラソン選手の走りを間近で見ながら、しっかりと任務を果たしオリンピック・パラリンピックに繋げていきたいと思えます。



第 38 回南丹市陸上競技選手権大会を開催

2019年7月21日(日)に丹波自然運動公園陸上競技場で、第38回南丹市陸上競技選手権大会を開催しました。連日の降雨等悪天候が続き、当日の天候が心配されましたが、好天のもと、参加した選手はそれぞれの競技種目に挑み、新記録、好記録が数多くでました。



関副会長と最優秀選手賞を受賞した明治国際医療大の川口さんと田村さん

今選手権で次の新記録がでました！

(敬称略・順不同)

種目	名前	所属	記録
一般男子 100m	中 井 裕 彰	京都教育大学	1 0 秒 9 2
一般男子 100m	齋 藤 薫	明治国際医療大学	1 0 秒 9 7
一般男子 200m	齋 藤 薫	明治国際医療大学	2 2 秒 0 3
一般男子 1500m	上 田 脩 真	園部高校	4 分 0 9 秒 8 9
一般男子ハンマー投	田 村 啓 斗	明治国際医療大学	6 2 m 2 1
一般女子 100m	川 口 愛 華	明治国際医療大学	1 2 秒 8 9
一般女子 100m H	川 口 愛 華	明治国際医療大学	1 5 秒 4 2